

# コロナ禍の先にある学び

公教育で力強く成長するためのビジョン

---

## 前書き

## 序論

### 児童・生徒のウェルビーイングと学業の成功を診断

### 十分なサービスを受けていない児童・生徒のニーズに応える

### この夏、そしてその先にある学び、豊かさ、再会

### 学習と成長のための卓越したプロフェッショナリズム

### 公平性と卓越性を中心とした教育システム

## 前書き

先月、アメリカ教員連盟(AFT)と全米教育協会(NEA)は共同で、新型コロナウイルス感染症のパンデミックが児童・生徒の学業および発達上の経験を妨げていることを効果的に理解し、対処するために必要と思われる本質的な要素を定義しました。

AFTとNEAは、すべての児童・生徒、特にパンデミックによって最も深刻な影響を受けている児童・生徒の教育とウェルビーイング(身体的・精神的・社会的に良好な状態にあること)に尽力しています。米国新政権は、このような時代に対応して公立学校を補強し、子どもの全人的な発達に向けて学業と社会性、情動を確実に支援するために必要な連邦政府の資金を確保する新たな機会を提供します。これは私たちにとって、単に「普通」に戻ろうとするのではなく、人口や地理に関係なく、すべての児童・生徒にふさわしい公立学校を作るという、これまでになかったチャンスでもあります。

この文書は、教育システムが、学習面、行動面、情動面で生徒を理解し、その状態に合わせて対応することを目指したより総合的なアプローチをいかにとることができるか、そして、全人的でバランスのとれた、文化的配慮がある、トラウマを熟知したうえでのカリキュラムや指導をいかに提供できるかについて、私たちの考えを示したものです。生徒が現在、そして将来活躍するために必要な支援とリソースを確実に受けられるようにすることが、私たちが掲げる大胆な共通課題です。私たちは、積極的に関与

する姿勢を示した教育省の新しいリーダーシップを期待してこの文書の構想を始めました。しかし、ここに書かれている内容の多くは、州や地区、地域社会やその他パートナー、そして私たちの加盟組織のリーダーやメンバーにも当てはまるものであり、彼らは今後必要とされる共同作業の重要な担い手でもあります。

NEAとAFTは、すべての学校施設を安全に再開した後も、新型コロナウイルスによって健康と安全上の問題が引き起こされる可能性があることを認識しています。効果的な緩和の計画と戦略を必要に応じて迅速に実行することが重要になります。児童・生徒が力強く成長するには、学校にいることと、学校で安心して過ごせることの両方が必要です。

私たちは教育者として、児童・生徒の学習やウェルビーイングに関わるすべてに、前向きかつ肯定的な立場から取り組みます。「学習機会の喪失」や「コロナスライド」(新型コロナウイルスによる下降)などの言葉が一般化していますが、これは誤った見方です。これらは負の側面ばかりに目を向け、児童・生徒をないがしろにし、学習がどれほど深く、そして目的をもって行われるかを誤って伝える表現です。

私たちは、児童・生徒の強みを認め、直面する並外れた障壁を克服するための想像力をかきたてるようなポジティブな構想を提案します。そして、保護者や地域社会、その他関係者と協力して、構造的な人種差別、経済的不安、新型コロナウイルスなどの今日の課題に対して、より良い解決策を見つけることができる、そして見つけなければならないと信じています。「コロナ禍の先にある学び」には、このかつてない時代において、そして将来にわたって、質の高い教育体験を児童・生徒たちに提供したいという願いが込められています。新型コロナウイルスをめぐる機会格差は現実ですが、それを克服するための私たちの力も同様に現実です。私たち**全員**がこの瞬間から学ぶべきことは多く、また公平性、機会、包摂性を実現するためにすべきことがたくさんあります。私たちが選ぶ言葉は、こうした理解を自身や他者に伝えます。

これらの考えを含め、より深い議論を期待しています。

## 序論

今、そしてコロナ後に児童・生徒が学ぶためには、彼らが力強く成長できる環境を整えなければなりません。正義と公平を重んじる私たちは、教育の機会を増やしていきたいという思いに駆られます。このような機会は、幼稚園から高校までのすべての児童・生徒、そして公立学校に関わる全家庭に提供されなければなりません。さらに、学業や社会性、情動面で有意義な成長と成功を育むために必要なツール、時間、信頼、リソースを教員、准教員、すべての学校職員に提供することから、教育機会を成長させていかなければなりません。

児童・生徒の可能性を引き出すために、教員はどうすればいいのでしょうか。学習の科学に基づいた指導、カリキュラム、評価システムによって引き出すのです。私たちは、芸術、スポーツ、科学、公民や歴史など、児童・生徒に全人的でバランスのとれた学習機会を提供しなければなりません。国が南北戦争以来最悪の民主主義の危機と100年に一度のパンデミックに直面した今年、公民と科学がいかに重要な位置にあるかを考えてみましょう。全人的な教科だけでなく、地域に根ざした研究プロジェクトや、証拠に基づいた討論、社会問題をテーマにした演劇を書いて上演するなどの学際的なチームワークなど、魅力的でやりがいのある活動にも学習の幅を広げていかなければなりません。また、学習は児童・生徒の文化的背景や状況に大きく影響されるため、より多くのコミュニティ・スクールを作ること

で、教師や学習支援職員、児童・生徒とその家族の関係を深めることにも注意を払わなければなりません。コミュニティ・スクールは、児童・生徒や家族を支援する包括的なサービスが提供される場であるだけでなく、状況に配慮し、文化的に適切で、トラウマを熟知したうえでの指導を通して児童・生徒の可能性が最大限に引き出される場です。

アスペン研究所が開催した「社会性と情動の発達および学力向上に関する全米委員会」(National Commission on Social, Emotional, and Academic Development)では、説得力のある説明がなされています\*。

学校やその先での若者の活躍は、健全な社会性および情動の発達と密接な関係があります。読み書きができ、数字に強く、科学的な概念や考え方に精通していることだけでなく、帰属意識と目的意識を持ち、クラスメートや仲間と協力して問題を解決することができ、計画を立てて目標を設定し、困難に立ち向かうことができる児童・生徒は、機会を最大限に活用し、可能性を最大限に発揮することができます。教員も、子どもの全人的な教育の利点を理解しており、このビジョンを実現するために、より多くの支援を得て、障壁を減らすことを求めています。

このビジョンを胸に、私たちは、現在、そしてコロナ後も、児童・生徒の学びを育むための指針となる5つの優先課題を提言します。具体的には、児童・生徒のニーズを把握すること、最も弱い立場にある児童・生徒を支援すること、学習時間を拡大し夏期講習やエンリッチメント・プログラムを計画すること、学習と成長のために卓越したプロフェッショナリズムを約束すること、公平性と卓越性を中心とした教育システムを確立すること、などが挙げられます。

## 1. 児童・生徒のウェルビーイングと学業の成功を診断する

新型コロナウイルスの感染拡大で学校教育に支障が生じた状況において、児童・生徒の学習ニーズを診断し、ウェルビーイングの状態を把握することが非常に重要になります。パンデミックで最も大きな被害を受けた有色人種、農村部、先住民族の児童・生徒、英語学習者、障がいのある児童・生徒、そして教育システムの恩恵を受けていないすべての児童・生徒が、必要な支援を受けられるようにする必要があります。私たちは児童・生徒の学習時間を最大限に活用し、教員と協力して作成した意味のある学力評価とニーズ評価に取り組み、効果的な指導を支援する必要があります。教員はこれを教室で頻繁に行っています。

2021年2月、米国教育省は「全ての生徒が成功する法」(Every Student Succeeds Act)の要件に関連して、コロナ禍で児童・生徒の学習を評価するためのガイダンスを発表しました。それに先立ち、NEAとAFTの両団体は、評価の管理とその責任ある活用の両方に柔軟性を持たせる必要性を強調し、2020年度は共通テストの一次中止を提言していました。共通テストの点数は、個人の指導内容の有効性、信頼性、完全性を示すものではなく、生徒が何を知り、何ができるかを正確に測定するもので

---

\* Stephanie M. Jones and Jennifer Kahn, *The Evidence Base for How We Learn: Supporting Students' Social, Emotional, and Academic Development*, National Commission on Social, Emotional, and Academic Development, Aspen Institute, September 13, 2017, p. 4, [www.aspeninstitute.org/wp-content/uploads/2017/09/SEAD-Research-Brief-9.12\\_updated-web.pdf](http://www.aspeninstitute.org/wp-content/uploads/2017/09/SEAD-Research-Brief-9.12_updated-web.pdf).

もありません。それらは今、特に問題になっています。教育省が提示したこうした評価の柔軟性は、参考にはなるものの、教育、学習、健全な学校環境を支援するための情報収集やリソースの配分を州が支援するには不十分です。

ターゲットを定めた柔軟性をできる限り確保することで、州、地区、学校は、不完全で役に立たないデータしか得られない評価を行うために時間、資金、資源を費やすことなく、児童・生徒の強みやニーズを診断し、よりよく理解するための手順を確立することができます。今後、どのような柔軟性や免除が認められるかはわかりませんが、教員の声が学校の将来の形成に貢献できる点が最も重要です。地区、州、連邦政府のリーダーは、教員、家族、その他の関係者と協力して、評価で得られた情報を活用し、不平等を特定して対処し、それぞれに合った支援やサービスを提供するべきです。

## 進むべき道

- リスクの高い共通テストの代替策を支援し、連邦政府のテスト基準を満たすためにそれらの使用を認めることを求めます。児童・生徒が成長するために必要な学業および社会性と情動面での支援を診断するための基盤として、全人的で信頼のおける評価システム、地域社会アンケート、タウンホール、その他協力的なツールなどのメカニズムを確立することを求めます。[ニューヨーク・パフォーマンス・スタンダードズ・コンソーシアム\(New York Performance Standards Consortium\)](#)がその一例です。[ラーニング・ポリシー・インスティテュート\(Learning Policy Institute\)](#)から高く評価されているこのコンソーシアムは、質を保証するために教員が共同で開発し、児童・生徒に焦点を当て、外部が評価を行うパフォーマンス評価を通じて学習を評価するものです。もう一つの例は、連邦政府に承認された試験的プログラムとして[ニューハンプシャー州教育省](#)が2015年から運営している「パフォーマンス・アセスメント・オブ・コンピテンシー・エデュケーション」(PACE: Performance Assessment of Competency Education)モデルです。PACEは、コンピテンシ基盤型教育アプローチに基づき、児童・生徒が重要な知識やスキルを身につけるための有意義な機会を確保できるようにデザインされています。
- 一連の診断評価を、メリーランド大学医学部の[ナショナル・センター・フォー・スクール・メンタルヘルス\(National Center for School Mental Health\)](#)が推奨するような、学校を拠点とした児童・生徒の心の健康に関するスクリーニングを含める形で拡大することを求めます。また、メディケイドの対象となる児童・生徒には、償還を活用する機会を検討するよう求めます。新型コロナウイルス感染拡大を受け、学習状況や児童・生徒と職員の経験を測定するために、定期的に学校風土調査を実施するよう求めます。アスペン研究所の[学校風土プレーブック](#)では役に立つ事例が紹介されています。同様に、教員や学校職員の回復力とセルフケアを定期的にチェックし、学校における全体的なウェルネスを推進することを求めます。米国研究学会の[センター・フォー・グレート・ティーチャーズ・アンド・リーダーズ\(Center on Great Teachers & Leaders\)](#)では、[自己評価と計画に役立つツール](#)を提供しています。
- 各州と協力して、2020年度の評価の柔軟性を最大限に高める要求(評価の短縮、リモート化、遅延を含む)を受け入れ、健康と安全が懸念される場合、非現実的または不可能な場合、あるいは児童・生徒、家族、教員の最善の利益にならない場合は、2月のガイダンスを超えた柔軟性を追加的に認めることを求めます。

- 「全ての生徒が成功する法」の柔軟性が、英語学習者や障がいのある児童・生徒に対する州の責任を軽減するように解釈されたり、利用されたりすることがないように求めます。他の連邦法で権利が規定されている場合は特にそうで、各州は、英語学習者と障がいのある児童・生徒の識別、評価、支援のためのサービスを継続して提供する責任を負うべきです。幼稚園に入る幼児や小学校 1、2 年生を対象に、発達段階に応じたマイルストーンと早期読み書き能力や計算能力のスクリーニングツールを州や地区が用意し、指導や介入に役立てることを求めます。これは子どもたちを現在の学力レベルによって厳正にグループ分けすることではありません。
- 連邦政府が支援するクリアリングハウス(情報センター)を設立し、質の高い全人的な評価に関する情報を検討・普及させ、評価に関する共通の語彙を確立させることを求めます。具体的には、評価の種類、用途、適用方法などについて、関係者間で集団的なコンセンサスを図ることを求めます。
- 教員の評価リテラシーと多文化対応力を向上させるために、仕事に組み込まれた職能学習を支援するための連邦資金投入を求めます。そうすることで、教員は、児童・生徒の精神、社会性、情動の健康に関する学術的および非学術的な指標の評価を通じて、児童・生徒の発達、ウェルビーイング、知識を診断するために様々な評価を効果的に利用できるようになります。

## 2. 十分なサービスを受けていない児童・生徒のニーズに応える

幼い子ども、英語学習者、障がいのある児童・生徒など、最も弱い立場にある児童・生徒たちのニーズには最優先で応えなければならず、これには、リソースや職員への莫大な投資が必要となります。また、住む家がない児童・生徒、食料や経済の不安、家族関係の問題、その他の苦悩やトラウマを抱える児童・生徒のニーズを最優先に考えなければなりません。今年は無例の年ですが、パンデミックの影響を強く受けた児童・生徒のニーズに応えることに持続的に注力することで、彼らが潜在能力を発揮できるようにしていきます。

### 幼児教育

新型コロナウイルスをきっかけに、未就学児から小学 3 年生までの児童が学校内で学習する重要性が浮き彫りになりました。このような幼児期の学習経験は、児童・生徒が成長するために必要な学力、言語、社会性、情動、実行機能のスキルを身につける鍵となります。質の高い幼児教育は、児童・生徒の学力を向上させ、社会性と情動の発達を支え、退学率を下げ、社会的安定性を高めることが研究で明らかになっています。パンデミックの間、一部の児童・生徒はリモート授業を受けられず、年少の児童は学校生活をほぼ経験していません。ありがたいことに、子どもたちは、学校の内外で思いやりのある大人と信頼関係を築くことで、適応し回復することができます。年少の児童を担当する教員には、児童を対面式の学習になじませ、学年に応じたスキルを身につけさせる方法について、さらなる支援とトレーニングが必要です。

### 英語学習者

また、全米の公立学校に通う児童・生徒の約 10%に当たる 500 万人の英語学習者にもさらなる支援が必要です。その多くが通う学校は、慢性的に財源が不足し、その結果、質の高い授業や

必要な学業支援を提供できないことが多いのが現状です。全国的には、学区のリモート学習計画で、英語学習者が母国語と英語で学業に励むための適切なリソースが確保されているかどうかに関心が集まっています。米国教育省の報告書によると、全米の英語学習者の25～50%は、オンライン学習に必要な適切なデバイスやインターネットへのアクセスのいずれも持っていません。同じ報告書によると、英語学習者専用のデジタルリソースはほとんどないとのことです。これらの課題に加えて、英語学習者とその家族は、母国語で書かれた学校情報がないこと、彼らとコミュニケーションをとれる学校関係者が足りないこと、生活賃金が得られる仕事に就きにくいこと、移民ステータスに関連した不安、孤立によるトラウマなど、さらなる障壁に直面しています。

### 障がいのある児童・生徒

障がいのある児童・生徒(軽度から重度の認知、身体、社会、感情、行動上の配慮が必要)は、必要な教育サービスを十分に受けにくい状況にありました。教師がリモートで特別な教育サービスを提供するために懸命に努力しても、特定の療法や支援は物理的に近い場所で行う必要があるため、提供が困難であったり、不可能であったサービスもあります。障がいのある児童・生徒の教育計画は個別に用意され、ニーズと進捗状況も個別に評価する必要があるため、万能の解決策はありません。

特に新型コロナウイルスによる病気や死亡、失業の増加、孤立による精神的負担など、パンデミックの影響で困難な状況に置かれている多くの児童・生徒に関わり、ケアするためには、教員、准教員、看護師、カウンセラー、その他学校職員が、児童・生徒やその家族と強い絆を築くための時間が必要です。思いやりのある安定した人間関係は、青少年の心を癒し、学ぶことへの情熱を取り戻し、将来への希望を抱かせるのに効果的です。公教育の道を選んだ人は、この仕事をする準備ができていますが、それをするための時間が必要です。そのためには、真の人間関係を築けるレベルで学校に職員を配置するための十分な財源が必要です。

## 進むべき道

- 専門的な教育支援者(セラピスト、カウンセラー、言語聴覚士、学校心理士、行動学の専門家、養護教員など)や、幼児教育、バイリンガル教育、特別支援教育に必要な準備、資格、専門知識を持つ専門教員や准教員を大幅に増員し、維持することで、最も配慮が必要な児童・生徒が質の高い学習体験を得られるようにすることを求めます。
- 学習機会を増やすことで、児童・生徒が学年の基準を満たし、教員が学力の伸びを確認できるようにすることを求めます。
- 職能開発を通じて、教師や教育支援職員が、英語学習者の母国語での強みを生かして主要教科の学習を進めることができるようにすることを求めます。
- 最も配慮が必要で、最も弱い立場にある児童・生徒が、双方向の1対1の集中的な指導を最大限に受けられるようにすることを求めます。リモートであれ対面であれ、個人指導の追加的な支援が優先されなければなりません。年少児(就学前児童から小学校3年生まで)は、保護者や養育者が学校外で子供の教育に関わるのが非常に重要であるため、そのためにしっかりと構成されたプログラムとリソースを提供するよう求めます。

- 支払い能力にかかわらず、すべての児童・生徒が健康的で栄養のある食事を利用できるよう求めます。
- 「障がいのある個人のための教育法」(Individuals with Disabilities Education Act)に十分な資金を提供し、障がいのある児童・生徒が適切な進歩を遂げることができるような追加支援に向けて、目的を定めた追加資金を提供することを求めます。
- 教員やその他関係者の意見を取り入れながら、対面式の指導が再開された後に学区がどのようにコロナ後の補習やその他復帰のためのサービスを提供すべきかについて、学区に法的な指針を提供することを求めます。可能性のあるモデルの一つとして、[ペンシルベニア州教育省](#)は、学校再開から数ヶ月後、学業面での支援が追加的に必要な児童・生徒に補習の活用を重視した指導を行っています。ペンシルベニア州では、このような取り組みのために、放課後のサービスやサマースクールに特別な資金を提供しています。

### 3.この夏、そしてその先にある学び、豊かさ、再会

パンデミックをふまえ、特に弱い立場にある児童・生徒が、資格のある専門家と一緒にガイド付き学習に取り組むことができる時間を増やす機会を設けるべきです。これには、授業日の延長、年度の延長、授業日の再編成、あるいは学区の職員や元教員、教員志望者による個人指導やエンリッチメント・プログラムの機会を提供することなどがあります。労使協力を通じて、労働協約で決められた労働基準を維持しつつ、児童・生徒の学習時間を増やすことで機会格差を解消する方法を模索する必要があります。組合と地区は協力して、希望者のために(適正な報酬で)新たな人員配置を行うことに合意すべきです。このような協力的なパートナーシップは、拡大された学習の機会を積極的に活用することへの理解を深め、児童・生徒にとって効果的なプログラムを実施することにつながります。例えば、10年以上前に始まったペンシルベニア州ピッツバーグ、マサチューセッツ州スプリングフィールドとフォールリバーでの[学習時間延長の取り組み](#)は、現在も継続しており、児童・生徒の成果もしっかりと向上しています。

また、公教育を活性化するための重要な要素として、特に財源が十分でない地域の児童・生徒を対象に、従来のプログラムから、キャンプのような体験や AFT が提案している「第 2 の 2 学期」まで、教科学習、社会性と情動の支援、レクリエーション活動を組み合わせた夏季の学習機会にも、注目していく必要があります。夏季プログラムは 4 週間から 8 週間にわたって行われますが、これには教員がアート、音楽、体育、主要教科を取り入れた学習を協力して計画するために必要な時間が含まれます。ここでは、学習機会を通じて学問的な知識を構築し、文化的に適切な意味のある方法で児童・生徒を引き付けることが重要になります。プロジェクトベースの学習、実践的な体験、問題解決では、児童・生徒が背景知識を習得し、概念を理解し、批判的思考を高めることができます。また、夏季は、教師と児童・生徒の関係を再構築し、看護師、カウンセラー、心理学者のサポートのもと、トラウマや社会性と情動の学習ニーズに対応する機会となります。このような育成型の「夏期講習」は、今後 2、3 年間にわたって行われるべきです。なぜなら、児童・生徒の学習を十分に強化するには、ひと夏では不十分だからです。キャンプのような体験では、豊かさを育み、パンデミックによって中断された活動を充実させることができます。経験豊富な国や地域のパートナーは、夏休みなどの長期にわたる学習機会を提供する上で重要な役割を果たします。

## 進むべき道

- 通常の学校生活や延長学習の場で、課題に取り組む時間を増やし、個人に合わせた指導やフィードバックを行い、人間関係を構築するために、少人数制の学習を多用するための人員を増やすことを求めます。今回のパンデミックでは、物理的に安全な距離を取り、新型コロナウイルスの感染リスクを下げるために、少人数での学習が必要となりました。連邦政府と州政府は財源の充実を通じて学校が少人数制のクラスを維持できるようにし、児童・生徒がより個別の指導を受けられるようにする必要があります。このような指導は、現在だけでなくパンデミック後にも役立つものであり、特に最も弱い立場にある学習者に有効です。
- 学年、時間、プログラムの長さ、食事、交通手段などの観点から、プログラムを見極め、状況に合わせて調節することを求めます。より多くの学生が対面式の教育活動に戻ることでニーズや状況が変化することを考慮し、覚書を通じて重要な分野を評価することを求めます。地区全体でアンケートを実施し、夏季の指導に対する有資格者(教員、準職員、学生教員、元教員、代理教員)の関心度を把握することを求めます。また、夏季業務の報酬は、授業時間に加えて、指導計画の立案、同僚との共同作業、児童・生徒の家族との交流などに費やした時間を考慮して設定することを求めます。これらのプログラムは、児童・生徒と職員の両方が自発的に参加するものでなければなりません。
- プログラムが安全な環境を確保し、社会性と情動の学習とトラウマへの対処に焦点を当てられるように、組合が策定・主導する職能開発を提供することを求めます。教員と地区職員とのコミュニケーションは、教員がそれぞれの具体的な役割と責任を理解し、新学期への移行をスムーズに行うための鍵となります。
- 州の基準と学習機会の統合が必要です。例えば、地域の問題を調査し、その問題に対する改善策や解決策を考案するなど、児童・生徒が主体的に学習に取り組むように指導し、力を与える時間が必要です。

## 4. 学習と成長のための卓越したプロフェッショナルリズム

職能学習システムは、児童・生徒の成功を中心に据え、教育学の枠を超えて、心身のウェルビーイングや、パンデミックによって悪化した多重の格差や不正を認識し、より包括的なアプローチをとるべきです。学校の従業員の3分の1以上が教員ではないことを考えると、児童・生徒のニーズを満たす役割を担う従業員一人一人が、適切で質の高い職能開発を利用できなければなりません。

長年にわたり、組合は質の高い職能開発を率先して行い、学区と密接に協力して実施してきました。このような職能学習は、多くの優秀な専門家が主導し、毎年、何千人もの教師や教育支援職員に、効果的な指導の基礎から CPR や応急処置の手順まで、あらゆることを教えています。職能開発、そしてそこから生まれるプロフェッショナルリズムの醸成は、私たちが誇りを持ち、拡大を目指す組合活動です。

また、私たちの組合は、公共の教育機関で働く人々への配慮においても主導的な役割を果たしています。私たちは教員や学校関係者がいかに疲弊し、負担を強いられているかを知っています。セルフケアは特に重要で、学校には、児童・生徒、職員、学校の回復力を守るための財源が必要になります。学校システムがどの程度児童・生徒と教員の両方のニーズを確実に評価して理解し、その理解に基づいて意思決定を行っているかが、健全で総合的な教育経験を提供するための態勢に影響します。

理想的な状況では、若者の教育は、行政、教師、学校職員、児童・生徒、家族、そして地域社会のパートナーシップによって成り立ちます。児童・生徒の成長と成功は今、これまで以上に、児童・生徒と家族の支援と成功に結びついた目標指向の活動を特徴とする包括的なアプローチにかかってくるでしょう。

児童・生徒の学力向上、社会性と情動の発達を十分に支援するために、学校システムでは職員一人一人の職能面での成長を優先しなければなりません。『ラーニング・フォーワード』(Learning Forward)では、[職能学習の4本柱](#)として、「公平性をもって導く」「チーム学習に投資する」「質の高い教材を活用する」「エビデンスをもって主張する」を挙げています。さらに5本目の柱として、人種的、社会的、経済的な不正義が教育現場でどのように現れているかを理解し、対処することを目指しています。卓越したプロフェッショナリズムを真に評価するシステムは、給食費を払えないという理由で児童・生徒を辱めることを容認したり、有色人種の児童・生徒が不均衡な割合で停学処分を受ける状況を生み出したりする状況を積極的に理解し、それに対処しようとします。質の高い職能学習は、正義、公平性、多文化対応力を促進し、変化する環境に合わせて継続的に改善し、指導方法や学校コミュニティの環境に良い影響を与えます。

## 進むべき道

- 労使協調のパートナーシップにより、職能学習の優先課題を確立することを求めます。連邦政府の資金援助と関連する支援によって、こうした協力関係を奨励し、児童・生徒と教員のニーズに合った意味のある職能学習を確保するべきです。
- すべての学校関係者に適用され、児童・生徒の成功、公平性、人種的・社会的正義を中心とした職能開発(および学習環境)への期待を成文化する業務埋め込み型職能学習を支援するために、連邦資金を投入することを求めます。学力や学力以外の各種評価を効果的に活用し、児童・生徒の成功を確実にするための最適な学習機会を作り上げる教員の能力を養成するよう求めます。学校環境の形成と発展における家族と地域社会の関与と多文化対応力の重要性を立証するよう求めます。[修復的実践](#)を理解し、効果的に活用することを求めます。教員のセルフケアの重要性を認識し、それを養うために必要な支援を提供することを求めます。
- 児童・生徒のデータや学校の質の分析に基づいて職能学習をデザインし、差別化することで、児童・生徒の学習を向上させるための教員のニーズに応えることを求めます。教員の現在のスキルや知識を考慮することなく地区から義務づけられた一律の職能教育は、時間と費用を無駄にします。
- 教員のキャリアに応じた独自のニーズを考慮する卓越したプロフェッショナリズムの養成を各州が支援するために、連邦資金を割り当てることを求めます。さらに、連邦資金

は、教員が教師のリーダー、ピア・オブザーバー、コーチ、メンターとして貢献する機会を反映した、差別化された制度や給与など、教師の表彰・昇格制度の構築を支援すべきです。

## 5. 公平性と卓越性を中心とした教育システム

AFTとNEAは、すべての児童・生徒、特にパンデミックの影響を最も受けている児童・生徒の学業の成功と社会性と情動のウェルビーイングに尽力しています。私たちは、単に「普通」に戻るのではなく、児童・生徒にふさわしい公立学校の構築を約束します。

学校の改善と青少年の育成に関する研究は明確です。しかし、私たちは児童・生徒が活躍できる環境を整えるどころか、パッチワークのような取り組みや、説明責任を重んじる短期的なインセンティブを続けるばかりで、児童・生徒の可能性を引き出してはいません。

シカゴ大学学校研究コンソーシアム(Consortium on School Research)の研究者たちは、教育と学習を支援するための具体的で効果的な方法として、まず学習の科学に基づいて、指導、カリキュラム、評価、職能開発の見直しを始めました。不可欠な教育支援には、リーダーシップ、家族や地域社会とのつながり、職員の専門的能力、児童・生徒中心の学習環境、指導方法なども含まれます。学校と地区は、こうした分野に焦点を当て、共同の意思決定を変化のきっかけとすることで、向上することができます。

### 進むべき道

- まず、セクション1から4までのすべての提言を実行することで、公教育制度が児童・生徒の学業および学業以外のニーズに対応し、最も弱い立場にある児童・生徒(およびその家族)にピンポイントで焦点を当て、延長学習や夏季プログラムを通じて豊かさを提供し、学校職員の専門知識とウェルビーイングに資金を投じることを目指します。
- 教育職の道筋を探り、進め、奨励することを求めます。他の産業組合や労働組合における多くの実習プログラムは、教育職の模範となるものです。AFTとNEAは、連邦政府や州政府と協力して、教育部門の人材確保に必要なスキルや資格を新卒者が取得できるようにするための実習プログラムを開発したいと考えています。私たちは、教育職に就くための障壁をなくす方法を模索すべきです。生徒による指導のような無償インターンシップは、(建築業のように)公正な報酬が支払われる組合主導の見習いプログラムに変えていくことができます。
- コミュニティ・スクールを地区全体で実施することを求めます。コミュニティ・スクールのモデルは、児童・生徒や家族が直面している人種的、社会的、経済的な不公平のいくつかを解決することができます。効果的に設立され、適切な資金と支援が投じられれば、コミュニティ・スクールは家族やコミュニティの生活の心臓となります。パートナーシップ・フォー・ザ・フューチャー・オブ・ラーニング(Partnership for the Future of Learning)がNEAおよびAFTとの共同で作成した『[コミュニティ・スクールズ・プレーブック](#)』(*Community Schools Playbook*)は、効果的なコミュニティ・スクールの重要な構成要素を明確に示しています。従来の学校を真のコミュニティ・スクールに変えることで、こうした学校に通う児童・生徒だけでなく、その家族の健康、ウェルビ

ーイング、学業の成功が優先されるようになります。ニューメキシコ州の[ラスクルーセス公立学校](#) やアルバカーキ／ベルナリオ郡コミュニティ・スクール・パートナーシップのようなコミュニティ・スクールは、NEA や AFT の加盟団体と協力して、学習とウェルビーイングに対する取り組みが総合的になされるようにしています。私たちは、コミュニティ・スクールの数を飛躍的に増大させ、家族の参加、保育、早期学習の機会を統合する連邦政府の十分な資金提供を支持します。

- 家族や地域社会の人々を関与させるよう求めます。研究者たちは、学校中退に対処するための鍵として、家族や地域社会の関与を挙げており、学校と家族、地域社会の強力なパートナーシップが、より高い教育意欲と、より意欲的な児童・生徒を育てることを指摘しています。こうした事例は、保護者の学歴、家庭の収入、背景に関わらず、初等教育と中等教育両方の児童・生徒に当てはまります。また、保護者の関与は、十分な財源のない地域の児童・生徒の学業成績を向上させることを示す研究結果もあります。教育と学習を支援するためには、児童・生徒の学業のニーズだけでなく、社会サービス上のニーズにも対応する必要があります。このような広範な支援が成績の向上に不可欠です。地域のリソースと児童・生徒のニーズを結びつけることで良い効果が得られることは十分に立証されており、教育に対する地域社会の支援は、成績の良い学校に共通する特徴の一つとなっています。

## 結論

今こそ、教員のアドボカシーと発言力を高め、各学校で何がうまくいっているか、どこを改善すべきかを評価するために、協力体制を構築するときです。私たちは、公教育が直面しているすべての課題の中にチャンスを見出しています。そして共に、教育と学習を強化し、児童・生徒がのびのびと力強く成長できるようにするために有効だとわかっていることを積み重ねていくことができます。

教師がリーダーシップを発揮し、教師としての成長に共に責任を持つことで、私たちの労働組合は、命を脅かすパンデミック、経済的不安、人種差別への対応、民主主義への継続的な脅威など、国が直面する危機に率先して対処していくことができます。私たちは教員として、児童・生徒が知識やスキルを身につけ、大人や養育者と思いやりのある関係を築き、コロナを超えて学ぶために必要な、公平で公正な環境を提唱することができます。パンデミック前と全く同じ学校教育に戻すことは不可能であり、同時に受け入れられないことでもあります。これは特に、人種的・経済的不公平や機会の欠如に苦しんできた有色人種の児童・生徒、障がいのある児童・生徒、農村部の児童・生徒、その他十分なサービスを受けていない児童・生徒に当てはまります。私たちが最も重視すべきなのは、児童・生徒が回復し成功できるように、彼らが置かれている現状から対応し、彼らがいるべき場所へと導くことです。また、これらの危機から学んだことを行動に移さなければなりません。今、これまで以上に、保育、医療、社会サービス、そして公教育そのものなど、複数のシステムを調整し、十分な資金を確保する必要があります。そうして初めて、児童・生徒が必要とし、受けるに値する支援を提供し、力強く成長できる状態を整えることができるのです。

私たち全国組合 2 団体は、州や地元の加盟団体と協力して、これらの提言を共有し、地区や地域社会、州の教育省、連邦政府の教育省と協力して、その実現に向けて取り組むことを約束します。新型コロナウイルスが学習と発達に与える長期的な影響を緩和することが、私たちの仕事のすべてです。

[囲み]

## パイプラインを拡大し、教員が初日から「教育職に臨む態勢を整える」ようにする

全国調査の結果、新型コロナウイルスによる安全性への懸念から、[教員の約 25%が退職を考えている](#)ことが明らかになりました。それに加え、学生時代の借金を背負い、疲労困憊していることを考えると、教育人材の維持、確保が国家的な課題であることは明白です。また、教育人材の 79%が白人であり、児童・生徒の 50%が非白人という現状において、労働力の多様化も重要な課題です。有色人種の児童・生徒は有色人種の教師のもとで高い成果を上げているという調査結果が出ています。

すべての教員が、自分の教室で児童・生徒の学習に責任を持つようになった時点で「[プロフェッション・レディ](#)」(profession-ready)、つまり教育職に臨む準備が整った状態でなければなりません。連邦資金は、高校の採用プログラム、准教員が教員になるためのプログラム、準備の整った教員のパイプラインを増やすための地区と大学のパートナーシップを支援するために投じるべきです。シアトルやサンフランシスコで実施されているような[教員レジデンシー・プログラム](#)は、地区が高等教育機関や労働組合と協力して質の高い教員養成を推進する例を示しています。

このような重要な取り組みを支援するために、教育省の「教師の質向上パートナーシップ助成金」(Teacher Quality Partnership Grants)のようなプログラムに対する連邦政府の資金援助を継続・拡大すべきです。

[囲みここまで]

## AFT/NEA 推奨参考文献

Ambrose, A. J. H. (2020). Inequities during COVID-19. *Pediatrics* 146 (2).  
<https://pediatrics.aappublications.org/content/146/2/e20201501>

American Federation of Teachers. *Distance learning community: Supporting students during the COVID-19 pandemic*. <https://sharemylesson.com/coronavirus/distance-learning>

American Federation of Teachers. (2021, February). *Roadmap to safely reopening our schools*.  
[https://www.aft.org/sites/default/files/aft-reopen-schools-one-pager\\_feb2021.pdf](https://www.aft.org/sites/default/files/aft-reopen-schools-one-pager_feb2021.pdf)

American Federation of Teachers (2017). *Union role in diversifying the educator workforce: Building from within*.  
[https://www.aft.org/sites/default/files/union\\_role\\_in\\_diversifying\\_the\\_educator\\_workforce\\_2017.pdf](https://www.aft.org/sites/default/files/union_role_in_diversifying_the_educator_workforce_2017.pdf)

American Institutes for Research, Center on Great Teachers & Leaders. (2020, April). *Educator resilience and trauma-informed self-care: Self-assessment and planning tool*.  
<https://gtlcenter.org/sites/default/files/Educator-Resilience-Trauma-Informed-Self-Care-Self-Assessment.pdf>

Aspen Institute. (2021, January). *Creating conditions for student success: A policymakers' school climate playbook*. <https://www.aspeninstitute.org/wp-content/uploads/2021/01/Aspen-Institute-School-Climate-Playbook-Final.pdf>

Barry, B., & Ferris-Berg, K. (2016). Leadership for teaching and learning: How teacher-powered schools work and why they matter. *American Educator*. <https://www.aft.org/sites/default/files/ae-summer2016professionalism.pdf>

Barton, P. E. (2003). *Parsing the achievement gap: Baselines for tracking progress*. Princeton, NJ: Educational Testing Service.

Belachew, T., & Surkin, R. (2020, October 16). *This is the new skills gap for young people in COVID-19 age*. World Economic Forum. <https://www.weforum.org/agenda/2020/10/youth-employment-skills-gap-covid-19>

Belfield, C. R., & Levin, H. M. (Eds.) (2007). *The price we pay: Economic and social consequences of inadequate education*. Brookings Institution Press.

Borders, G. D. (2020, June). A call to action. *The Learning Professional* 41 (3).

Colorín Colorado (2019). <https://www.colorincolorado.org>

Communities in Schools. (2007). *National educational imperative: Support for community-based, integrated student services in the reauthorization of the Elementary and Secondary Education Act*. Alexandria, VA.

Deliso, S., Foreman, D., Hill-Washington, T., & Narayanaswamy, S. (2020, December 9). *Why assessing well-being is important in schools: Introducing the Well-Being Index*. <https://turnaroundusa.org/why-assessing-well-being-is-important-in-schools-introducing-the-well-being-index>

Goldstein, D. (2020, June 5). Research shows students falling months behind during virus disruptions. *New York Times*. <https://www.nytimes.com/2020/06/05/us/coronavirus-education-lost-learning.html>

Henderson, A. T., & Mapp, K. L. (2002). *A new wave of evidence: The impact of school, family, and community connections on student achievement*. Austin, TX: National Center for Family & Community Connections with Schools. <https://sedl.org/connections/resources/evidence.pdf>

Herold, B. (2020, April 10). The disparities in remote learning under Coronavirus (in charts). *Education Week*. <https://www.edweek.org/technology/the-disparities-in-remote-learning-under-coronavirus-in-charts/2020/04>

Hirsh, S. (2019). *4 cornerstones of professional learning: Fundamental principles pave the way for educators' actions*. Oxford, OH: Learning Forward.

Jensen, B., Sonnemann, J., Roberts-Hull, K., & Hunter, A. (2016). *Beyond PD: Teacher professional learning in high-performing systems*. Washington, DC: National Center on Education and the Economy.

Jeynes, W. H. (2003). A meta-analysis: The effects of parental involvement on minority children's academic achievement. *Education & Urban Society* 35 (2): 202-218 年

Jones, S. M., & Kahn, J. (2017, September 13). *The evidence base for how we learn: Supporting students' social, emotional, and academic development*. National Commission on

Social, Emotional, and Academic Development. [https://www.aspeninstitute.org/wp-content/uploads/2017/09/SEAD-Research-Brief-9.12\\_updated-web.pdf](https://www.aspeninstitute.org/wp-content/uploads/2017/09/SEAD-Research-Brief-9.12_updated-web.pdf)

Kamenetz, A. (2020, May 27). *Survey shows big remote learning gaps for low-income and special needs children*. NPR. <https://www.npr.org/sections/coronavirus-live-updates/2020/05/27/862705225/survey-shows-big-remote-learning-gaps-for-low-income-and-special-needs-children>

Kuhfeld, M., Tarasawa, B., Johnson, A., Ruzek, E., & Lewis, K. (2020). *Learning during COVID-19: Initial findings on students' reading and math achievement and growth*. NWEA.

Learning Policy Institute. (2018, August 29). *Community schools playbook*. <https://learningpolicyinstitute.org/product/community-schools-playbook>

Malkus, N. (2020, June 16). School districts' remote-learning plans may widen student achievement gap. Education Next. <https://www.educationnext.org/school-districts-remote-learning-plans-may-widen-student-achievement-gap-only-20-percent-meet-standards>

Marzano, R. J., & Heflebower, T. (2011). Grades that show what students know. *Educational Leadership* 69 (3): 34-39 年

Mascio, B. (2016). True teaching expertise: The weaving together of theory and practice. *American Educator*. <https://www.aft.org/sites/default/files/ae-summer2016professionalism.pdf>

McCombs, J. S., Augustine, C. H., Pane, J. F., & Schweig, J. (2020). *Every summer counts: A longitudinal analysis of outcomes from the national summer learning project*. Santa Monica, CA: RAND Corporation. [https://www.rand.org/pubs/research\\_reports/RR3201.html](https://www.rand.org/pubs/research_reports/RR3201.html)

Mitchell, C. (2020, March 17). English-learners may be left behind as remote learning becomes 'New Normal.' *Education Week*.

National Academies of Sciences, Engineering, and Medicine. (2020). *Summertime experiences and child and adolescent education, health, and safety*. <https://www.nationalacademies.org/our-work/summertime-experiences-and-child-and-adolescent-education-health-and-safety>

National Education Association. (2020, September). *All hands on deck: Guidance regarding reopening school buildings*. [https://www.nea.org/sites/default/files/2020-09/27383%20All%20Hands%20On%20Deck%20Reopening%20Guidance%20Update\\_Final%2009.2020.pdf](https://www.nea.org/sites/default/files/2020-09/27383%20All%20Hands%20On%20Deck%20Reopening%20Guidance%20Update_Final%2009.2020.pdf)

National Education Association. (2020). *Collaboration in action series: Safely reopening school buildings*. <https://www.nea.org/sites/default/files/2020-10/Collaboration%20in%20Action%20-%20Safe%20Reopening.pdf>

National Education Association. (2020, August). *Profession-ready teachers*. <https://www.nea.org/sites/default/files/2020-08/profession-ready-teachers.PDF>

National Education Association. (2020). *The six pillars of community schools*. <https://www.nea.org/sites/default/files/2020-06/Comm%20Schools%20Toolkit-final%20digi-web-72617.pdf>

- National Education Association. (2017). Education support professional growth continuum. <https://www.nea.org/professional-excellence/professional-learning/esps/continuum>
- National Education Association. (2014, January). *Teacher residencies: Redefining preparation through partnerships*. <https://www.nea.org/sites/default/files/2020-07/Teacher-Residencies-2014.pdf>
- NEA Foundation. (2012, April). *Expanding learning opportunities to close the achievement gaps: Lessons from union-district collaborations*. <https://www.neafoundation.org/wp-content/uploads/2017/07/elo-final-2.pdf>
- Pennsylvania Department of Education. (2020). *Governor's emergency education relief (GEER) funds*. <https://www.education.pa.gov/Schools/safeschools/emergencyplanning/COVID-19/GEER/Pages/StudentsSpecialNeeds.aspx>
- Pennsylvania Department of Education. (2020). *Guidance and answers to FAQs on COVID-19 compensatory services*. <https://www.education.pa.gov/K-12/Special%20Education/FAQContact/Pages/COVID-19-Compensatory-Services.aspx>
- Public Policy Associates, Incorporated. (2020, September). *Digital equity for students and educators*. [https://www.nea.org/sites/default/files/2020-10/NEA%20Report%20-%20Digital%20Equity%20for%20Students%20and%20Educators\\_0.pdf](https://www.nea.org/sites/default/files/2020-10/NEA%20Report%20-%20Digital%20Equity%20for%20Students%20and%20Educators_0.pdf)
- Ricker, M. C. (2016). Reclaiming our profession: The AFT's task force on professionalism. *American Educator*. <https://www.aft.org/sites/default/files/ae-summer2016professionalism.pdf>
- Robinson, C. D., Kraft, M.A., Loeb, S., & Schueler, B. E. (2021, February). *Accelerating student learning with high-dosage tutoring: EdResearch for recovery design principles series*. [https://annenberg.brown.edu/sites/default/files/EdResearch\\_for\\_Recovery\\_Design\\_Principles\\_1.pdf](https://annenberg.brown.edu/sites/default/files/EdResearch_for_Recovery_Design_Principles_1.pdf)
- Schott Foundation for Public Education. (2014, March). *Restorative practices: Fostering healthy relationships & promoting positive discipline in schools*. <http://schottfoundation.org/sites/default/files/restorative-practices-guide.pdf>
- Science of Learning and Development Alliance. (2021). <https://www.soldalliance.org>
- Shafer, S. (2020, December 11). Closing COVID-19 equity gaps in schools. *Education Week*. <https://www.edweek.org/leadership/closing-covid-19-equity-gaps-in-schools/2020/09>
- Sugarman, J., & Lazarín, M. (2020). *Educating English learners during the COVID-19 pandemic: Policy ideas for states and school districts*. Washington, DC: Migration Policy Institute. <https://www.migrationpolicy.org/sites/default/files/publications/mpi-english-learners-covid-19-final.pdf>
- Ujifusa, A. (2020, January 7). Sure, we teach history. But do we know why it's important? *Education Week*. <https://www.edweek.org/teaching-learning/sure-we-teach-history-but-do-we-know-why-its-important/2020/01>

Umansky, I. (2020, June 9). *COVID-19's impact on English learner students*. Policy Analysis for California Education. <https://edpolicyinca.org/newsroom/covid-19s-impact-english-learner-students>